

児童の感想より

- ・この交流事業に参加していなければ、福井のことを学ぶ機会はなかったと思います。だから、参加してよかったと思いました。この交流は、福井のこともよく知れたけれど、熊本の良さや魅力に気づくことができました。今後もいろいろなことを経験して成長していきたいです。
- ・交流事業を終えて熊本と福井の文化の違いや、1日あれば仲良くなれるということを知りました。3日しかないのにこんなにも仲良くなれるなんて思ってもいなかったので驚きました。交流を通して、違う文化にも目を向けられるようになりました。
- ・時の流れがとても早く感じました。みんなとまたどこかで出会って、思い出話をしたいです。
- ・交流事業に応募し当選した時は、本当にうれしくて1日ずっとニコニコでした。初めての研修会では、どんな感じで過ごすか分からなかったけどすぐに仲良くなれました。この交流は、ぼくの人生の大きな経験になりました。
- ・この交流事業を終えて、初めて出会う人と話すことに自信ができました。初めて会う人とも、前よりは話せるようになりました。私は、仲よくなるためには勇気を出して、自分から話すことが大事だと思いました。これからいろんな所で出会う人に話しかけ、友達をたくさん作りたいです。
- ・この交流事業を終えて、思い出が一つ増えたと友達も増えました。この交流の経験は大人になっても生かしていこうと思いました。

保護者の感想より

- ・子どもから「これ行きたい!!」と言ってこなかったらこういう事業がされている事も知らなかったと思います。貴重な時間を子どもたちのためにありがとうございました。
- ・今年度は、地震の影響で福井市への派遣はかないませんでした。それでもとても有意義な時間を過ごせたと思います。
- ・学校と違う皆さんと交流ができ、これから成長していく中で積極的に行動したいと思う気持ちが強くなったように感じました。
- ・福井市の歴史や文化などを学ぶきっかけになりました。また、改めて熊本市の歴史に興味を持ち深く理解ができたと思います。市の代表としての意識を持ち、積極的に行動することができました。大きく成長したと思います。
- ・学校では、できない経験は子どもを成長させます。すばらしい機会をいただいたことに感謝します。
- ・何より参加したいといった子どもの成長に驚いた!!からスタートしました。熊本での交流会での出来事や福井の子どもたちとの会話、熊本と福井の違いについてたくさん子どもと語る時間が増えました。違った子どもの一面を知ることができました。
- ・参加しなければ経験できなかったことや出会えなかった人に出会え、貴重な時間だったと思います。
- ・福井を身近に感じるようになって、地図上でどこにあるか、何があるのか、どうやって行くのか、時間はどれくらいかかるのかを調べたり考えたりするのが充実しているように見え親としても参加することができて良かったと思います。

役職員の感想

新年早々、石川県能登半島において震度7の大きな地震が起こり、甚大な被害が生じました。被災されお亡くなりになられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、その御家族並びに避難所生活等を余儀なくされている方々へ衷心よりお見舞いを申し上げます。

1月の交流事業(1/5～1/7にかけて福井市を訪問)は、福井が被災地と隣接しており、余震が継続して起こっている状況から、安全面での問題、また、熊本地震を経験した保護者やこどもたちの心理面に配慮した結果、中止といたしました。

昨年、8月の熊本市での交流事業以来の再会を心待ちにしていたこどもたちにとっては、残念な思いでいっぱいであったと思います。

しかし、そのような中においてもこの交流活動を通して、様々な成果がみられました。

◇人と人とのつながり

8月4日、熊本駅で福井市の交流団のこどもたちを迎えた時、まだ遠慮があったのか微妙な距離感がありました。しかし、バスに乗り込んで移動している間に距離がぐっと近づいて、バスを降りる頃には昔からの友達のように話している姿が見られました。あらためてこどもたちの順応性の速さに驚かされるばかりでした。また、8月5日は、熊本市の中心部の「街探検」でした。チームワークもよく、自分たちで考えたコースを通り、サクラマチ、新市街、下通り、上通り、熊本市役所、そして待望の熊本城をめぐる街中探検でした。「うわー、熊本城って大きい」、「サクラマチってきれいだね」といった驚きや感動をそのまま表現できる素直さ、困ったことが起こると、みんなで「大丈夫だよ。何とかなるよ」と励まし合ったり、「よし。〇〇の方に行ってみようよ」と判断したりする姿につい笑みがこぼれてしまいました。また、本事業についての感想文には、「福井市のこどもたちにまた会いたい」「この経験をきっかけに、中学校でもいろんな人と交流をしていきたいです」と書いていたこどもが多数いたことから人と人とのつながりのよさを感じました。

◇ふるさと熊本のよさ再発見

熊本市教育長への表敬訪問を行いました。その中で、福井市のこどもたちに「今回の交流事業で最も楽しみにしていることは？」という質問に対して「熊本城に行ってみたい」という意見が圧倒的に多かったことが印象的でした。熊本城のネームバリューと関心の大きさをあらためて感じる事ができました。一方、熊本市のこどもたちの中に、「僕は、この交流活動の中で福井のことを知ることができたけれど、あらためて熊本市の良さや魅力に気づくことができました」といった感想が多くあり、福井市のこどもたちの反応を受け止め、ふるさと熊本のよさを再発見する機会になったことがわかりました。

◇成長の跡

このような活動を通して、多くのこどもたちに成長の跡がみられました。あるこどもは、「このような交流事業には参加しようと思ったことすらなかったのに小学校最後の学年なのでやってみようと思いました。最初は不安だったけれど、みんな優しくて最初から話せたのでよかったです。僕は、初めて会う人と話すのが苦手でしたが、今回の交流で自信ができました。交流事業に参加してよかったです」と綴っていました。また、1月の交流事業が実現できなかったことに関して、残念な思いは持ちながらも、交流事業での自分自身の成長を再確認したり、被災された石川県の方々への配慮の気持ちを表現したりするなど心の成長がみられました。このような事例以外にも、人前で自分の考えを表現することへの自信や積極的な行動の表れなど、交流事業前と成長の跡がみられたと保護者の方々からお話を聞くことができました。あらためて、この交流事業の意義を感じることができました。

ピアニストのフジ子・ヘミングさんが次のような言葉を残しています。「人生に無駄なことなんか、ひとつもない。生きるってことは、いろいろ経験すること。その時は、自分とはまったく関係のないことのようにも、その経験が大切に思える時がきつとくる。」

今回、残念ながら福井市への交流訪問は実現できませんでしたが、本事業に参加したこどもたちは、きっとこの経験をよりよい方向に結びつけてもらえるものと期待しています。最後に、今回の交流事業にこれまでに関わり、様々な準備にご尽力をいただきました福井市、熊本市の関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。また、次年度、この交流事業が30周年を迎え、熊本市と福井市の交流が益々発展していくことを祈念いたします。

およそ160年前、熊本藩士の横井小楠が福井藩の招きを受けて4度福井を訪れ、藩政改革を実行しました。160年の時を経て、熊本市と福井市の小学6年生が交流を続けてきています。29回目となるこの交流事業に初めて関わらせていただき、これまでに知らなかったことや経験したことのないことが多くあり、わくわくすることはばかりでした。

8月の夏真っ盛り、熊本市への受入で両市の団員が初めて出会いました。熊本の魅力を知ってもらおうと、事前に計画をしていた熊本市の団員は、おもてなしの心でその日を待ち望んでいました。小楠記念館の見学から始まり、熊本城・街中探検、火の国まつりのおてもやん総踊り、博物館での理科実験など、両市12人の団員たちはずっと笑顔で過ごしていました。寝食共にする中で、互いの共通点や相違点に気づき、どんどん絆が深まっていました。

その後のオンライン交流では、遠く離れていながらも、近況報告をしたり熊本市での思い出話をしたりと、和気あいあいとした

時間を過ごすことができました。熊本での共通体験が距離を縮めているのだと思いました。福井市の歴史や文化を調べ、持ち物の準備を進めていき、冬の寒さ本番、1月5日からの福井派遣への期待もどんどん膨らんでいきました。残念ながら能登半島地震による影響を鑑み、福井派遣は中止となりましたが、「また会いたい。」「共にこれから先も頑張ろう。」という思いはみんな同じです。心のつながりはこれからもずっと続くことでしょう。出会えたことに感謝です。ありがとうございました。

私は今回、初めて「熊本市・福井市小学生交流事業」に参加させていただきました。熊本市だけでなく、福井市の様々な学校から集まった子どもたちと、2泊3日をともに過ごすことに、最初は緊張と不安もありました。しかし、初日に熊本駅で集まった際、元気に明るく挨拶をする熊本の子どもたちを前に、その不安な気持ちは吹き飛んでいきました。福井市から来た皆さんも、早朝の出発だったにも関わらず、とてもエネルギーに満ち溢れていて、私も気合が入りました。最初は緊張しながら会話していた子どもたちも、お互いすぐに打ち解け、その日初めて会ったとは思えないほど仲良くなっていました。

夏の熊本はとても蒸し暑く、特に今年は、例年にないほど暑く感じられました。しかし、両市の子どもたちは暑さに負けずに、すべての活動に積極的に参加していました。1日目は、横井小楠記念館見学や豊野少年自然の家での交流の集いがありました。事前に自分たちで準備した熊本市紹介のプレゼンをしたり、おてもやん総踊りの練習をしたりして、熊本市の特色を知ってもらう良い機会になりました。2日目は、熊本城見学と街中探検、熊本市現代美術館見学、そして前日に練習したおてもやん総踊りへの参加をしました。盛りだくさんのスケジュールの中、子どもたちは真剣に学び、最後は元気いっぱいに踊って、大満足の1日でした。バスに向かう帰り道も、みんなで歌って踊りながら戻ったことが、とてもよい思い出です。3日目は、熊本博物館見学とお別れの会をしました。皆さんの表情がとても凛々しく、多くの学びや経験を通して、成長する姿を間近で感じることができました。

この3日間で、子どもたちのお互いを思いやる気持ちや積極的に取り組む姿勢から、私自身も学ぶことが多くありました。冬の福井市訪問もとても楽しみにしていましたが、今は安全第一で過ごしてほしいと思います。そして、いつか福井市に行きたいです。熊本市・福井市の団員の先生方、保護者の皆様、この事業に携わってくださった関係団員の皆様に心から感謝いたします。

本課に勤務し交流事業を担当して2年目になります。約20年前に指導員として2回携わりましたので、今回で通算4回目の関わりとなります。1回目は、お互い夏の交流でした。大阪からバスでの移動でしたが北陸自動車道の渋滞に巻き込まれてしまって、福井市少年自然の家に着いたのが予定よりかなり遅れて20時頃だったと記憶しています。2回目は、交流事業初めての夏と冬の交流でした。福井市にとっては初めての冬の受入でしたので、準備など大変だったことでしょう。しかし、熊本の団員は、冬の福井を満喫することができました。昨年度の3回目は、コロナ禍の中、検討に検討を重ねようやく3年ぶりに実施できました。しかし、火の国まつりが急に中止になったり、福井のみなさんが来熊するにあたり荒天でやっと到着し、帰りは陸路が寸断され飛行機で帰ることになったりしました。そして、4回目の本年度。思いもよらぬ能登半島での地震で派遣が中止になりました。振り返ってみれば、どの回も印象に残る交流事業だったと思います。今回で29回目になりましたが、これまでも様々なことがあったでしょう。「まだ、団員でいたい。この経験を大人になっても生かしていきたいです。」「思い出が一つ増え、友だちも増えました。福井市との交流をとおして、私はちがう文化にも目を向けられるようになったと思いました。」「この交流で自信がついて初めて会う人とも前より話せるようになりました。」これは、本年度の子どもたちの感想です。この交流事業は、子どもたちを成長させます。だから続いてきたと強く思っています。来年は、30回目となります。そろそろ、親子でこの事業に参加したという人も出てくるのではないかと期待しています。縁あって4回もこの事業に関らせていただいたので、私の関わりは「つづく」にしたいです。

最後になりましたが、この交流事業に関わってくださった役職員をはじめ、関係団体の皆様方、並びにご参加いただきました、団員、ご家族の皆様、心より感謝いたします。